

とモニタリングにおいて中心的手法となっている衛星リモートセンシングの基礎として、現在の地球環境研究を支える大きな柱となる分野であるが、現在日本で活動しているこの分野の中堅・若手研究者の大多数は、直接・間接に山本・田中教授の指導を受けてきている。

田中会員のもう一つの大きな貢献は研究と社会のインターフェイスとしての役割である。現在、地球環境問題の顕在化によって、その科学的解明を担う地球科学の強化が、一般社会や政府当局によって認識され、研究体制の整備が急がれているが、田中会員はそれま

で十分に省みて来られなかった大気・海洋科学分野を代表する研究者としてその重要性を早くから訴え続け、現在の研究体制拡充の基礎づくりにかけがえのない役割を果たした。さらに、田中会員は専門知識に立ったすぐれた著書や多数の講演を通じて地球温暖化の正しい科学的知識の普及に大きな貢献をなしてきている。

以上のような田中会員の地球環境研究をめぐる多面的な活動による学問と社会への貢献に対して田中正之会員に藤原賞を贈呈するものである。

1995年度日本気象学会総会議案

◎理事の辞任にともなう追加推薦について

日本気象学会第28期の2名の理事から理事を辞任したいとの希望が理事長に対して提出され、日本気象学会定款第21条の規定にしたがって理事会としてこれを承認しました。また、後任の理事候補者としては、日本気象学会細則第6条第11項の規定により、理事会の議を経て、各所属支部から推薦のあった会員を理事長から推薦することにいたしました。総会で審議していただくようお願いいたします。

なお、今回辞任された理事と、後任理事候補者は以下のとおりです。(敬称略)

辞任理事：佐野 昭 (関西地区選出)

滝川雄壮 (九州地区選出)

後任理事候補者：加藤一靖 (関西地区推薦)

中山 嵩 (九州地区推薦)

◎名誉会員の推薦について

日本気象学会定款第6条第5項では、本学会の名誉会員について「この法人(日本気象学会)に対し特に功労のあった者で総会の議決をもって推薦する個人」と規定しています。理事会で協議した結果、以下の方がた(敬称略、五十音順)を新たに名誉会員に加えていただくように総会に提案することを決定いたしました。総会でご審議のうえ、推薦していただくようお願いいたします。

なお、現在の日本気象学会名誉会員は、吉武素二、磯野謙治の両氏です。

候補者名 推薦理由

岸保勘三郎・理事長4期、理事9期を務めるなど、長

年にわたって日本気象学会の活動に貢献した。

- ・気象力学を中心とする分野における戦後の日本の気象学の発展に多大の貢献を行い、数値予報の実用化のために指導的役割を果たした。

藤田 哲也・メソ気象学、竜巻、ダウンバースト等の研究で数多くの学問的業績をあげるとともに、日本国内での学術講演等により日本の気象学関係者に大きな影響を与えた。

- ・海外における日本気象学会会員の研究活動を積極的に支援し、日本の気象学の国際的地位の向上に貢献した。

村上多喜雄・熱帯気象学、特にモンスーンに関する研究や著作を通じて日本の若手研究者に多大の影響を与えた。

- ・ハワイ大学への研究者の受け入れ等により、海外における日本気象学会会員の研究活動を積極的に支援し、日本の気象学の国際的地位の向上に貢献した。

山元龍三郎・理事長2期、理事11期を務めるなど、長年にわたって日本気象学会の活動に貢献した。

- ・気候研究の発展に多大の貢献を行い、世界気候研究計画(WCRP)関連の活動で学術、行政の両面にわたる同計画の推進役を務めている。